

文化財をたずねて ②

《毘沙門の滝》

毘沙門の滝は、岡豊町滝本にある。高さ三十尺、三段にわかれて落ちていて、とても見事である。中段に龍の駒の足跡といつて、岩



歴史を秘め、とうとうと流れる毘沙門の滝

に大きな馬の蹄のような跡がある。すぐ近くに毘沙門堂が建っているが、これにはこんな話が残っている。

昔、弘法大師が、大津の港に着いたとき、滝の音を聞いてここを訪ね、滝にうたれて身を清め、毘沙門天を彫刻し、これを祭ったのが毘沙門堂であるという。この滝は南国市指定の名勝地である。滝の前の池には、鯉が遊んで長閑である。周囲には老木が茂り、紅葉の頃にはとても美しく、高知市に近いいのでここに遊ぶものは多い。

長宗我部元親の盛んであった頃、ここに規模の大きな滝本寺があり、榮貴・非有とよまづ名僧があつた。非有は仏学はもとより、経史にも通ずる学者で、元親の信任が厚く、奉行として、軍議に内政に建言することが多かった。

滝本は外から見れば小寺なり、入り入り見れば名所大寺、という草歌が今に残っている。

山崎隆さん(滝本)の話

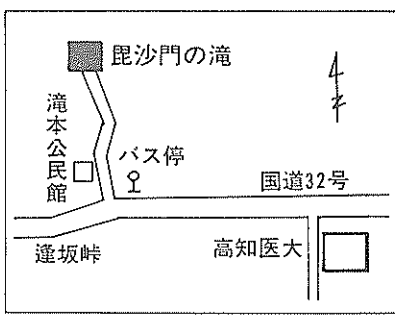


山崎 隆さん

滝の東にある毘沙門堂は、長宗我部氏が建てたもので、五十年ほど前、御神体の毘沙門天が盗まれた事件が起こりました。そのため今は新しい御神体を祭っています。が、商売繁盛に御利益があり訪れる人もかなりあります。

長宗我部氏は、とても神仏を尊び、滝本地区だけでも四つの寺が集まっています。今の池の所には滝本寺という大きなお寺がありましたが、今は木が茂っている山の上の方まで水田になっていたそうです。この辺一帯は長宗我部氏によって、早くから開発が進められていたようです。

滝本寺がなくなったのは、いつのころかわかりませんが、その場所には畑になっていました。そして昭和になって、田を潤すために、ため池を作り現在に至っています。



「ご家庭で話し合せて答えてください。答えは、この広報に出ています。」

■もんだい・4月15日、市内最西南端の十市で、〇〇〇〇〇〇〇〇の起工式が行われた。

■しめきり・5月15日

■おくり先・〒783 南国市大井町三〇一 南国市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所部 落名・氏名・年齢・職業を書いてください。

■賞品・特賞千円・三人、残念賞(記念品)五人

第137回正解発表(敬称略)

(応募総数37通)

■こたえ(鶴)小学校

■特賞・千円・三人

■篠悦子(稲生)

■門脇竜一(久礼田)

■山下とみ子(東嶋)

■残念賞・記念品五人

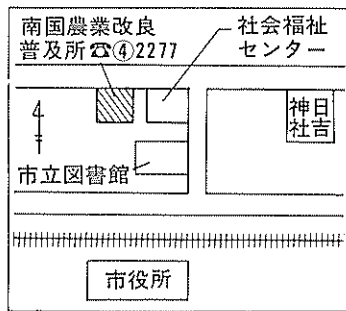
■松村美香(岡豊) 岡林明美(植野) 和田國輝(大井) 水田(男)

(久礼田) 村田謙子(植野)

普及所から ⑩

農事・生活改善について 気軽に相談を

広報紙の毎月一日号に「普及所から」という小窓を設け、農業改良や生活改善に関する季節的な事柄について、スポット的に記事を



載せ、農家のかたをはじめ広く市民に活用を願っているところです。農業改良普及所の役割についていまさら説明の要はないかと思いますが、改めてここに紹介します。

農業の振興を図るには、土地基盤整備をはじめ、いくつかの基幹をなす政策がありますが、その一つに作物の収量を上げたり、品質の向上を図ったり、生産性を高めたりする「技術の開発と普及」があり、普及所は、その「技術の普及」を担っています。

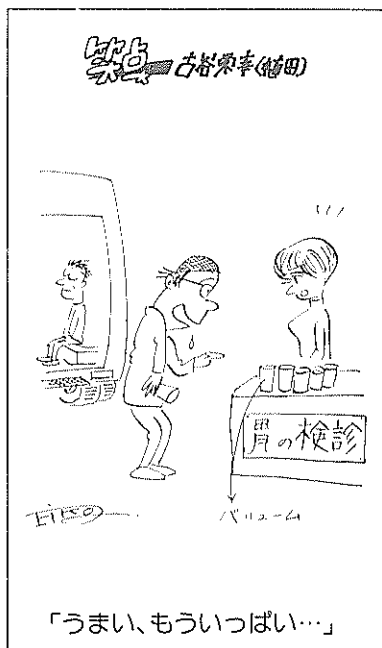
普及活動の基本的な方針は、活力ある地域づくりと農業経営の安

定向上、生活改善との有機的な結びつきによる「健康で豊かな村づくり」を目標として、市当局の振興計画や関係農業者団体の事業計画との整合性をもった、普及指導計画を毎年度立て、これに基づいて普及活動を行っているものです。

そこで、地域の実情により課題や普及項目も多くなっていますので、活動体制としては、地域を特定した重点対象指導と、集落段階の農事研究会、作目別専門部会、それに生活改善グループ、農業後継者クラブなどの集団を対象とし、効率的な指導活動を進めています。

兼業化の進行、水田利用再編対策に伴う経営の複合化により、相談件数も増加の傾向にあり、また、集団に属さない農家や一般のかたからも各種の相談を受けます。

これらの相談活動も大切な仕事



の一つであり、農事や生活改善についてお気軽にご相談ください。

なお、各農協(支所)の営農指導員とは緊密な連絡を持って活動していますので、農協の指導員に相談していただいても結構です。

四月一日付人事異動により、五人の職員の出入がありました。これに伴い、一部地域分担と専門

〔南国農業改良普及所〕

南国歌壇

白きぎの休耕田を歩く日に
春雷はるけき夏と語りぬ
切々のマイク通して選挙カー
桜みち咲く峠を縫いゆく
亀岩 島本 栄
白梅のこぼれる庭に春立ちて
根方は早も土うるはへり
下野田 竹村虎治

泡沫のひと世と知れど空しかり
昨夜もの言ひし人の語を聞く
夕映えの如くに天寿尽きし父
九十三才の静き終焉
植野 中司愛子
4月1号の池田小村さんの短歌で、「春のびて」は「昔のびて」の誤りでしたので訂正します。

南国柳壇

花吹雪杯に受け足られ
おみくじに慰められて段下る
化粧した女房見直す花見酒
大衆の正論を聞く縄のれん
三畠 井沢正子
十市 大家寿恵子
十市 沢村鶴一
植田 吉本其梅

南国俳壇

炭窯に火の音なくて梅咲かす
海鳴りがそこまで届く初桜
夫おわす二月満月え合掌す
原発反対の向うしぐるる沖から春
牧草の真青に落花加わりて
禅林に五体投地の鳥の恋
早春の顔のきらめきを驚わたり
未黒野や日暮れてよりの雨となり
野火うつり子等もうつりて川面暮る
和泉えい子(忍冬句会)
水田まさき()
川村ひろ()
井上成喜(天狼俳句会)
北村菊女()
中村繁生()
山本 園(おがたま会)
清水弥生()
中橋淑子()